シティプロモーション・アワード2023評価シート

応募部門：途上部門 本庄市高校生プロジェクト「七高祭」

組織または団体名・担当者名：本庄市 広報課 高橋、細井

主担当・副担当 佐藤、上村 ／記入日：11月11日→補正：12月20日

項目	評価項目	*調査員採点	倍率	補正後	コメント
①目標設定	シティプロモーション事業に取り組もうとした課題認識は適切か	4	×3	12	事業根拠は総合振興計画に基づく。総振による現状分析及び転出者アンケート、高校生（事業ターゲット）ヒアリング等による課題認識は適切。
	参考：リサーチ手法の的確性を説明可能か	○			
	参考：現状分析及びターゲット分析のいずれも十分か	○			
	参考：戦略・指針等に記述されているか	○			
	シティプロモーションの目的(最終アウトカム)及び成果指標が地域の課題認識と十分な整合性があるか	3	×6	18	20代転出が多い現状に対し関係人口増を目的としている。七高祭を経験した高校生が「本市のファン」であり続け、ひいては関係人口になること。地域接触を契機に、移住・定住、就職等の動き（最終目標）に対し、経過的指標としてmGAPを援用した「七高祭指数」を設定してい
	参考：地域の課題認識との整合性は論理的か	○			
	参考：指標は定量化されているか	○			
	参考：目的は明文化されていたか	△			
②ブランド構築	本アワードにおけるブランドとは、当該地域の特徴的なライフスタイル、滞在スタイルを基礎にして構築されるものであるが、そうした意味でのブランドの明確化ができているか	3	×3	9	本事業では「七高祭」をブランドと規定。人口7.7万人に対し高校が7つ。高校生が多い＝市外からの多くの10代が訪れている−強みを「“何か”を生み出す若い芽が集まる ポテンシャルあるまち」づくりに結びつけるとしている。
	参考：当該地域における生活や滞在の特徴（スタイル）が明確になっているか	○			
	参考：ブランドのアウトプットは十分か	△			
	上記ブランド構築への市民参加は的確に行われているか	4	×3	12	平成20年度から地域に根づいて行なわれてきた連携プロジェクトから現在まで、一貫してターゲット（高校生）の存在を前提としており、事業実施そのものがブランド構築といえる。地域住民との連携も十分。
	参考：ブランド構築にとって市民やステークホルダーの存在が決定的なものか	○			
	参考：ブランド構築の初期から市民やステークホルダーが参加しているか	○			
	参考：ブランド構築の過程に何らかの市民参加があるか	○			
③ターゲット	シティプロモーションの対象セグメント（ターゲット）とその設定根拠は明確か	4	×6	24	本事業「七高祭」ブランドに対し、第一ターゲットとして「本市に通う高校生」第二ターゲットとして「地域住民」を設定。さらに、市外の中学生とその保護者を第三のターゲットとすることを検討している。
	参考：ブランドに沿った訴求対象が明確か	○			
	参考：定住者への訴求に留意できているか	○			
	参考：戦略・指針等に記述されているか	○			
④競合または連携	シティプロモーションにおいて連携する地域（自治体）・団体及び競合する地域（自治体）の存在は明確か	3	×4	12	競合という考え方は想定していない。七高祭の実施にあたっては、29もの地元の事業者・団体が連携している。戦略・指針については、この後策定が予定されているシティプロモーション計画に記載予定 【※以下全項同様】
	競合対象または連携対象の意義について理解されているか	△			
	戦略・指針等に記述されているか	○			
⑤シティプロモーションを実現するメディア活用の的確性	ブランドの幅広い認知を獲得するためのメディア活用と成果指標（KPI）は的確か	4	×1	4	ターゲットは高校生なので、認知獲得においてインスタグラムがメインのメディアであるとするのは整合的。フォロー数により明確な確認が可能。近隣の中学生へも訴求
	参考：幅広い認知を実現するためのメディア活用と考えられるか	○			
	参考：認知獲得状況を確認するための指標は論理的かつ明確か	○			
	対象セグメントにターゲティングし、関心を惹起するためのメディア活用と成果指標（KPI）は的確か	4	×1	4	七高祭の実施内容（イベントとしての文化祭の出し物、プロジェクトのさまざまな成果物）自体が、次年度以降の参加に向けた関心を惹起している。来場者や参加数等の定量的なデータが指標となっている。
	参考：対象セグメントの関心を惹起できるメディア活用と考えられるか	○			
	参考：関心惹起状況を確認するための指標は論理的かつ明確か	○			
	地域のブランドへの信頼を十分に信頼可能とする、「公共性」とデータにより裏打ちされた「場」を設定した上で、その「場」へ的確に誘導できた対象セグメントの信頼を形成するためのメディア活用と成果指標（KPI）は的確か	3	×1	3	市と7つの高校による事業であることで前提的に公共的である上に、多数の地元事業者・団体が参画していることで、参加者の不安・不信は薄い。ただイベント実施に関し、多岐に渡る参加者ニーズへの対応による信頼獲得といった視点は今後に向けての課題。
	参考：対象セグメントを的確に誘導し、信頼を形成できるメディア活用と考えられるか	△			
	参考：信頼形成状況を確認するための指標は論理的かつ明確か	△			
	地域のブランドへの共感を十分に形成可能とする、地域に関わる人の思いや声が提起された「場」を設定した上で、その「場」へ的確に誘導できた対象セグメントの共感を形成するためのメディア活用と成果指標（KPI）は的確か	3	×1	3	実施内容の多くは、学校では体験出来ないようなことであるため、「同じ高校生が、こんな（凄い・面白い）ことをやっている」と感じる参加者が多く、高校生が自身で気づく成長のきっかけといった共感形成に寄与している点で貴重な機会を提供している。
	参考：対象セグメントを的確に誘導し、共感を形成できるメディア活用と考えられるか	○			
	参考：共感形成状況を確認するための指標は論理的かつ明確か	△			
	メディア活用の各時点での訴求対象者による情報拡散・情報共有を促すためのメディア活用と成果指標（KPI）は的確か	3	×1	3	七高祭のインスタグラムをメインに、市のHP、SNS、広報誌等によるメディア展開の他、プロジェクトのさまざまな成果物（R4年度：広報誌、PR動画、仮想空間等）。また各校における広報、さらに高校生自身による拡散を促す指導など、このフェイズについてはかなり重視している。
	参考：認知獲得・関心惹起・信頼形成・共感形成の各段階で、訴求対象者による情報拡散・情報共有を促すメディア活用と考えられるか	○			
	参考：情報拡散・情報共有を確認するための指標は論理的かつ明確か	△			
	対象セグメントに期待する行動を促すためのナッジ、インセンティブに係る取り組みと成果指標（KPI）は的確か	3	×1	3	実施主体としての高校生に加え、年を追って実施（参加）経験者が累積する仕組みであり、OB的な関与も増え続けている。これらがそれぞれの関係の中で、七高祭の参加を促しているというのも、本事業ならではの特徴といえる。
	参考：対象セグメントに期待する行動を促すためのナッジ、インセンティブに係る取り組みと考えられるか	○			
	参考：行動実現を確認するための指標は論理的かつ明確か	△			
⑥PDCA	PDCAを的確に実現するため、成果指標の逐次の確認により事業の的確な運営を図っているか	4	×4	16	高校生による実質的な実行委員会形式で運営がされており、年間を通じて毎月の会議が催されている。事業の準備から実施、開催、及び反省を踏まえ、翌年の委員会に申し送られる。成果確認は事業実施前後の「七高祭指数」測定により定量的に行なわれる。
	参考：事業の逐次の確認を行っているか	○			
	参考：事業の確認は定量的に行われているか	○			
	参考：確認の結果に基づく事業運営を行っているか	○			
⑦内部協力	団体または組織内部でのシティプロモーションへの理解・協力は獲得できているか	4	×6	24	市長自ら積極的に事業そのものに関与している。 当該の企画財政部のほか、経済環境部、都市整備部等、庁内の多くの部局からの理解・協力を得ることができている。
	参考：自治体においては首長の、その他団体においてはトップの理解・協力は十分か	○			
	参考：理事・管理職にあたる者の理解・協力は十分か	○			
	参考：シティプロモーション担当を除く各部局の理解度・協力度を的確に把握しているか	○			
	参考：自治体等組織内における多様な施策との連携はとれているか	○			
⑧地域活動の把握	地域で行われているシティプロモーションに資する活動を的確に把握しているか	4	×4	16	本事業自体、地域に広く、深く関わるシティプロモーションであり、この事業に関するあらゆる取り組みが、地域における発見と連携により成立している。
	参考：地域でのシティプロモーションに資する活動を発見する仕組みはあるか	○			
	参考：地域でのシティプロモーションに資する活動と連携する仕組みはあるか	○			
	参考：戦略・指針等に記述されているか	○			
⑨目標実現	設定された目標は実現できたか、あるいは実現に向けて進捗しているか	3	×6	18	目標と定量的な指標は明確に設定されており、コロナ禍の停滞はあったものの、事業は着実に進展している。市が今後進めるシティプロモーション事業全体の中の、中心事業としての重要性がより高まる。
	参考：目標は明確に設定されているか（既述）	○			
	参考：目標実現の進捗を評価する方法は適切か	△			
	参考：目標実現、あるいは実現に向けて進捗していることを定量的に説明できるか	○			
*調査員は各細目に必要に応じ○△×等を記載し、コメント欄に評価に係る内容を記述したうえ、総合評価点として各欄太枠内に1〜4のいずれかを記入			合計	181	